

『美術 2・3』オリエンテーション、学習を支える資料

	ページ	掲載の意図	活用方法
オリエンテーション	表紙 長谷川等伯 「枯木猿猴図」 デザイン バーコード	○表紙は、長谷川等伯「枯木猿猴図」を選んだ。巧みな筆づかいでサル毛並みや、枝のしなやかさが描き分けられている。また、どこかユーモラスなサル表情から、日本美術への親しみも感じられる作品だ。 ○裏表紙には、教科書の中にある作品から発想された、ユーモアのあるデザインバーコードを載せている。 ○表紙・裏表紙を最大限に活用して、鑑賞活動を深めてもらいたい。	○作品の一部分を大きく掲載しているため、墨の表現をじっくり味わうことができる。教科書P.36～37には、同じ作者による「松林図屏風」が掲載されている。また、P.30～31には墨で描かれた動物が掲載されている。それらと比較しながら鑑賞することもできる。 ○デザインバーコードが、何をもとにデザインされたか生徒に問いかけ、関連した作品を探す活動を通して、教科書全体を一度鑑賞させるとよいだろう。
	P.2～3 うつくしい！	○第2・3学年の始まりは、谷川俊太郎の文「うつくしい！」と、岡本太郎「太陽の塔」で構成した。巻頭「うつくしい！」の文をきっかけにして、「太陽の塔」の造形を鑑賞し、感じたことなどを他者と意見交換するなどして、見方や感じ方を深めることを経験させたい。	○まずは文章とともに、何も解説せずに写真を鑑賞させて、感じ取れることを話させたい。 ○教科書P.7には「太陽の塔」の全体像も掲載されている。また、P.24～26には同じ岡本太郎の「明日の神話」が掲載されている。作品にある三つの顔や、同時期に制作されたこれら二つの作品を通して、作者のメッセージを考えるなど、さまざまな切り口で鑑賞させることができる。QRコンテンツとして、作家や作品解説動画も用意されているのでそれらを活用してもよい。
	P.4～6 私たちに 問いかける美術	○社会に対するメッセージが込められた美術作品を、関連するSDGsの目標のアイコンとともに掲載した。多様な地域の作家や作品を掲載し、社会のさまざまな問題について考えることができるように配慮している。	○まずは解説を読まずに作品を鑑賞させ、作品に込められているメッセージを考えさせる。その後、解説やSDGsの目標のアイコンをヒントにあらためて作品を鑑賞させるのもよいだろう。作品に社会に対するメッセージを込めることの意味や、自分ならどんなアプローチで問題と向き合うのかなどを考えさせたい。 ○教科書P.104～105「美術の力」と関連させて、美術の学習の振り返りの際に活用してもよいだろう。
	P.68～69 暮らしの中の デザイン・工芸	○私たちは日常のあらゆる場面で、デザインされたものや工芸品に触れている。そのことを生徒たちに実感的に理解してもらうため、中学生の一日を例にとり、身近に感じられる例を掲載した。 ○デザインや工芸が自分たちの生活に溶け込んでいることに気づかせて、自ら制作するデザインや工芸の題材にも意欲的に取り組ませたい。	○掲載作品の工夫点を読み取るだけでなく、教科書を参考に、自分の一日を振り返り、身の回りにあるデザインされたものや工芸品を挙げさせたり、自分のお気に入りの製品などを発表させたりしてもよい。何気なく目にしてたデザインの工夫点などをあらためて考えさせることで、装飾する・伝える・使うなど、デザインや工芸のよさや役割についても気づかせたい。
学習を支える資料	P.94～95 学習を支える 資料一覧	○技法や色彩などの資料に気軽にアクセスできるように、QRコンテンツの一覧を掲載した。中学校で使われる用具や技法の多くを掲載しているので、タブレット端末などとともに活用してもらいたい。	○これまで学んできた技法を振り返る際や、生徒が自分で用具や技法を選んで制作する際に、タブレット端末などを使って活用させたい。
	P.96～97 仏像について 知ろう	○「阿修羅像」を大きく掲載した。「阿修羅像」は、三つの顔の表情や6本の腕の向き、手が示す形など、多くの視点から鑑賞することのできる仏像だ。感じたことや考えたことを意見交換させ、見方や感じ方を深めさせたい。 ○P.97では、仏像を鑑賞の際の手がかりとして、三つの観点を紹介した。	○修学旅行や社会科の学習などで仏像を鑑賞する機会があるものの、どのような観点で鑑賞すればよいかわからない生徒も多い。仏像のグループ分けや手の形、持ち物の意味など、教科書で示した観点を活用することで、その仏像に込められた人々の思いなどを感じ取らせることができる。 ○「阿修羅像」はQRコンテンツとしてさまざまな角度から鑑賞できる「360°写真」を用意している。鑑賞の際に活用するとよい。
	P.98～100 美術史年表	○日本および世界の美術の流れを示し、それぞれの時代に対応する美術作品を掲載している。作品を鑑賞する際、時代や様式といった大きな流れの中で作品を捉える視点をもたせるため、授業の中で適宜参照されたい。	○題材に掲載したものと同じ作品も掲載している。年表上のリンクを参照しながら、題材ページと関連させ、その作品がどんな時代にどんな流れの中で生まれたのかを考えさせたい。
	P.101～102 日本の伝統工芸	○全ての中生に、自分の住んでいる地域の伝統工芸について関心をもたせたいと考え、47都道府県の工芸品を1点ずつ掲載した。自分の地域はもちろん、近隣の地域の伝統工芸品にも関心をもつことで、伝統工芸が日本各地で大切に継承されてきたことを感じ取らせたい。	○身近な地域の伝統工芸に関心をもち、機会があれば実際に触れ、そのよさや美しさを体感させたい。自分の住んでいる地域との関わりの中で、伝統工芸について調べたり触れたりすることで、古くから技術を守り受け継いできた人々の思いを実感することができる。
	P.103 北と南の 民族衣装	○独自の文化を育んできたアイヌ民族と琉球民族の衣装を紹介している。アイヌの民族衣装は、独特の布地や文様などが鑑賞できる作品を紹介した。琉球の民族衣装では、その鮮やかな色合いの意味や型紙を使った染色技法なども学ばせたい。	○日本列島の北と南という、気候のまったく違う地域で育まれた文化を比較鑑賞し、共通点や違いを見つけさせることで、そのよさや特徴を感じ取らせたい。またそれぞれの地域でどんな思いでそれらの文化を継承してきたのかを考えさせたい。
終わりに	P.104～105 美術の力	○美術のもつさまざまな力や働きを紹介している。「国や言葉を超える力」として草間彌生の作品を、「見えないものを見えるようにする力」としてバンクシーの作品を、「ともに生きていく力」としてアール・ブリュットの作品を掲載した。「美術の力」をキーワードに、それぞれの作品を他者と意見交換するなどして鑑賞させたい。	○掲載されている作家の関連作品を調べさせるのもよいだろう。草間彌生の多様な作品から感じられるメッセージや、バンクシーの作品の問いかけ、アール・ブリュットの作品から感じられることなど、これまでの学びを生かしながら自分の考えをまとめさせたい。 ○教科書では美術の三つの力を紹介しているが、それ以外にどんな力や働きがあるか、中学校美術での学びを振り返りながら考えさせたい。
	P.106～107 うつくしい！	○中学校美術の締めくくりとして、谷川俊太郎の文「うつくしい！」とともに写真家・石田真澄が中学校で撮りおろした写真作品を掲載した。学校での日常を捉えた写真だが、さまざまな思いを喚起させる作品だ。3年間の学校生活を振り返り、美術を通して学んだことに思いをはせ、心豊かに未来へと歩んでほしいという願いを込めている。	○文と作品を鑑賞しながら、3年間の美術での学習を振り返らせたい。また、3年間の思い出を振り返りながら、校内の思い出の場所を撮影させてもよい。これまで撮影した写真があれば、それらと比較しながら、自分の表現がどう変化したかを考えさせてもよい。美術の学習を通して、自分の見方や感じ方がどう変わってきたかを言葉にするように促したい。